

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11104	2	後期	必修	1	30
授業科目名 (英文)	保健指導演習 (Health Counseling and Guidance)				
担当教員名	○渡會睦子／佐々木美奈子／山本由加里／氏原将奈				
授業の概要及び到達目標					
<p><b>【授業の概要】</b> ヘルスプロモーション活動における支援方法のひとつである保健指導について理解する。健康状態、生活習慣、家庭生活、労働生活および環境について、それらに関連させて対象を理解する。その上で、理論に基づき対象のヘルスプロモーションを促す保健指導を行うための基礎を身につける。</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスプロモーション活動の目的・進め方を理解できる</li> <li>・保健指導に必要なコミュニケーション技術を理解できる</li> <li>・個人を対象とする保健指導の計画、実践、評価の一連の進め方を理解できる</li> <li>・対象のおかれた環境、生活、および健康状態に関連させた対象理解ができる</li> <li>・健康行動に関する理論を理解できる</li> <li>・対象の健康や生活、環境の特徴に沿い、かつ理論に基づいた効果的な保健指導案を作成できる</li> </ul>					
準備学習等					
<p>授業進度に沿って、事前に自己学習した上で授業に臨むこと（各回1時間程度）。毎回の授業の復習を十分に行い、指定された課題を行うこと（各回1時間程度）。第13-14回のロールプレイでは、各回、事前課題（2時間程度）と事後課題（2時間程度）を課す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例の理解は、これまでの疾病論や解剖生理学で学んだ内容を基に進めるため、不明な点は調べておくこと</li> <li>・以下のテキスト・参考図書を読んだうえで受講すること <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト「基礎看護技術（改訂第3版）：看護過程のなかで技術を理解する」第2章4節「コミュニケーション」</li> <li>・テキスト「医療保健スタッフのための健康行動理論の基礎-生活習慣病を中心に-」</li> <li>・参考図書「標準的な健診・保健指導プログラム【改訂版】」（厚生労働省 HP <a href="http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/seikatsu/dl/hoken-program1_01.pdf">http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/seikatsu/dl/hoken-program1_01.pdf</a>)</li> </ul> </li> </ul>					
成績評価の方法	科目終了試験（50%）、提出物と13-15回目保健指導演習内容（50%）				

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>「基礎看護技術（改訂第3版）：看護過程のなかで技術を理解する」（香春知永、齋藤やよい 編集：南江堂）</li> <li>「医療保健スタッフのための健康行動理論の基礎-生活習慣病を中心に-」（松本千明：医歯薬出版株式会社）</li> <li>「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」（中村裕美子他：医学書院）</li> </ul>
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「医療保健スタッフのための健康行動理論の実践編-生活習慣病の予防と治療のために-」（松本千明：医歯薬出版株式会社）※</li> <li>「糖尿病・代謝・内分泌疾患ビジュアルブック」（落合慈之 監修、林道夫 編：学研メディカル秀潤社）（2年次購入）※</li> <li>「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）（1年次購入）※</li> <li>「新しい健康教育 理論と事例から学ぶ健康増進への道」（特定非営利活動法人 日本健康教育士養成機構：保健同人社）※</li> <li>「標準的な健診・保健指導プログラム【改訂版】」（厚生労働省 HP <a href="http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/seikatsu/dl/hoken-program1_01.pdf">http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/seikatsu/dl/hoken-program1_01.pdf</a>)（準備学習等欄に記載）</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>本科目は、公衆衛生看護援助論Ⅱ、公衆衛生看護援助論Ⅲ、公衆衛生看護学実習の履修前提条件となります。</li> <li>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。</li> <li>各授業でワークシートまたはレポートの提出があります。添削後返却または翌授業回においてフィードバックしますので、以降の振り返り学修に活用する等よく復習した上で試験に臨んでください。</li> <li>各教員のオフィスアワーについては看護学科「オフィスアワー」の項に提示します。</li> </ul>
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>意思決定支援、保健指導に関わる看護理論</li> <li>コミュニケーションと看護実践</li> <li>コミュニケーション技法</li> <li>保健指導概論、看護場面の再構成</li> <li>看護場面の再構成の実際(プロセスレコード)</li> <li>対象理解(1)：対象の思いを知る</li> <li>対象理解(2)：環境、生活</li> <li>対象理解(3)：病態生理</li> <li>保健指導に関する理論：健康行動理論(1)</li> <li>保健指導に関する理論：健康行動理論(2)</li> <li>保健指導に関する理論：健康行動理論(3)</li> <li>企業における保健指導</li> <li>保健指導の実際 <ol style="list-style-type: none"> <li>結果の説明、思いを引き出す(ロールプレイの実施)</li> <li>保健行動の提案(ロールプレイの実施)</li> </ol> </li> <li>保健指導案の振り返り、総括</li> </ol>	<p>(佐々木)</p> <p>(渡會)</p> <p>(渡會)</p> <p>(渡會)</p> <p>(渡會)</p> <p>(佐々木)</p> <p>(佐々木)</p> <p>(佐々木)</p> <p>(山本)</p> <p>(山本)</p> <p>(山本)</p> <p>(招聘講師)</p> <p>(山本・渡會・佐々木・氏原)</p> <p>(山本・渡會・佐々木・氏原)</p> <p>(山本・渡會・佐々木・氏原)</p>